

Japan Association of Synthetic Anthropology

総合人間学会

Newsletter 第48号 2023年12月21日発行

発行人：古沢広祐

事務局：〒112-86060 文京区白山 5-28-20 東洋大学社会学部社会学科 松崎良美研究室

電話：03-3945-7847 (直通) / ファックス：03-3945-7626

E-mail：contact@synthetic-anthropology.org

【目次】

I. 第18回大会概要	p.1
II. 理事会・運営委員会報告など	p. 4
III. 事務局からのお知らせ	p. 7

I. 第18回大会概要

1. 大会日程および開催方法についてのご案内

運営委員会・理事会とシンポジウム準備会の議論を経て、第18回研究大会は2024年6月15・16日に現状では実開催とオンライン併用（部分的）による大会として開催される予定になりました。

なお、大会の詳細に関しましては2024年3月以降、参加の手続きは4月以降に改めてお知らせします。オンライン併用では「Zoom」というWeb会議用のアプリケーションソフトを使用する予定です。（オンライン参加を希望される方には安定したインターネット環境のご準備をお願いします。ご懸念の方は事務局までご相談ください）

◆日程（案）※前回大会を参考とした仮案です。

◇1日目（6月15日）仮設定：詳細は後日に調整（プログラム調整で総会は午前中に繰り上げの可能性あり）

12:00~12:45		13:00~14:15		14:20~17:50
総会	休憩	特別講演	休憩	シンポジウム

◇2日目（6月16日）仮設定：発表申し込み状況にて後日に調整します

9:00~12:30		13:30~15:30、15:45~17:45
一般研究発表第一部	休憩	ワークショップ（適宜調整あり）

2. 大会シンポジウムについて

◆ テーマ

総合人間学から「ケア」を問う：人類・社会・個人

◆ 大会シンポジウム企画趣旨

「ケア」を、こんにち用いられているように、他者を気かけ、寄り添い、援助するあらゆる営みを包括する広い意味で捉えるならば、人間における「ケア」は、「人間性」(humanity) そのものの問題だといつてよい。

ダーウィンは、地球環境との関わりから自然選択による生物の進化を説明することで宗教的人間創造論に決定的打撃を与えたが、同時に、様々な宗教にみられる「利他」の黄金律こそ、その進化の流れの中でヒトが獲得した特質であったことをも指摘した。ダーウィン進化論のこうした側面は、20世紀前半にクロポトキンが「相互扶助論」において強調するなど分野を超えて広く知られ、一世紀以上立った今でも「見知らぬ他者への思いやりに関して、ヒトの右に出る者はいない」(マカロー『親切の人類史』)といわれるように、「人間」が「ケア」する動物であることの意義は再確認され続けている。

こうした「ケア」の問題は、18世紀のルソーの「憐憫」(pitié)、スミスの「同感」(sympathy)といった概念が示す通り、人類社会や近代国家を支える「正義」や「徳」をめぐる議論においても意識されてきた。17世紀の日本で出された「生類憐れみの令」が象徴するように、東洋においても儒教道徳や仏教における生命尊重思想などを通じて類似の問題が論じられてきた。近年でも、リベラル・コミュニタリアン論争の中でマッキンタイアが『依存的な理性的動物』を書き、「ケア」を必要とする相互依存的な生物としての人間が作り出す「徳」のあり方を問い直したように、国家や社会における「ケア」は依然重要な論点であり続け、21世紀に入ってますます盛んに論じられている。

こうした「ケア」する動物としての「人間」とは何なのか、という問いは、ユーラシア大陸と太平洋に挟まれた細い列島に住む1億以上のヒトの個体が共同して作り上げた国家が、その予算の3割以上を社会保障費に割いている現状に立てばこそ、より先鋭的に問われ得るのではないだろうか。資本主義社会における現実の「ケア」は、少なからぬ部分が低賃金労働や家族の無償奉仕で支えられており、ヤングケアラーや介護離職、ひいてはハラスメント、虐待など多くの社会問題の焦点となっている。2023年のノーベル経済学賞受賞者ゴールディンが分析した通り、「ケア」は男女の賃金格差をもたらす一つの根本的要因でもある。「ケア」は決して誰もが喜んでやりたいものではなく、むしろ、できるなら御免被りたい負担であるかもしれない。それでも私たちは、誰かに手を差し伸べたいと思い、あるいは誰かの手助けを期待してしまう。それは「人間」であるがゆえのことなのだろうか。

本大会では以上の問題意識に立脚しつつ、「人間」における「ケア」を再考することで、「人間」の一つの特徴としての「ケア」の諸相を追求し、現実の「ケア」の諸問題を乗り越えるための手がかりをそこに探してみたい。

◆ 登壇者

特別講演	山極寿一 (総合地球環境学研究所所長、京都大学 名誉教授)
報告1	桜井智恵子 (関西学院大学人間福祉研究科 教授)
報告2	本多俊貴 (拓殖大学 非常勤講師)
報告3	大橋恵美子 (看護師・看護学校教員)
コメンテーター	高橋在也 (千葉大学大学院医学研究院 特任助教)
	片山善博 (日本福祉大学社会福祉学部 教授)

3. 「一般研究発表」の申し込みについて

2024年第18大会に向けて、一般研究発表を募集いたします。またワークショップ企画をお考えのグループがありましたら、別途、事務局までご一報ください。

研究発表申し込みの受付期間は2024年1月4日から1月31日（必着）です。

発表は1人1回とさせていただきます。2人以上の共同発表の場合も原則として、1回の発表とカウントいたします。ただし、時間枠の延長・拡大は可能です。必要がある際は、事務局までご相談下さい。

なお、発表は大会実行委員会での承認をもって決定いたしますので、**申し込んだ段階では発表と決まったわけではありません。**発表が承認された後、改めて確認のお知らせをいたします。

大会プログラムに掲載する原稿の詳細についても、そのさいに改めてお知らせいたします。発表のお申し込みは、別紙の「**2024年第18回大会研究発表申込書**」をご活用いただき、必要事項ご記入の上、以下の宛先までご連絡下さい。

※発表時間は35分（報告25分+質疑10分）です。

〔お申込み宛先〕

事務局：〒112-86060 文京区白山 5-28-20 東洋大学社会学部社会学科 松崎良美研究室

電話：03-3945-7847（直通）／ファックス：03-3945-7626

E-mail: contact@synthetic-anthropology.org

※可能な限り、メールでのお申し込みをお願いします。申し込みに関する必要事項を本文に直接ご記入頂いても構いません。

4. 会費の納入について

「一般研究発表」で報告を希望される方は、申請の際、会費の完納が前提となりますので、過年度分も含め、会費の納入には十分ご留意ください。

*同じく今年度会費が未納の方は、早めの納入手続きをお願い申し上げます。

尚、郵便局に口座をお持ちの方は、口座間の電信振替により、ATM上の操作で学会の振替口座に会費を払い込むことが可能です。その場合、学会の口座情報が必要になりますので、今一度下記に確認、記載します。

振込みには各種方法がありますが、ゆうちょ銀行のATMで払込取扱票をご利用の場合は、窓口備え付けの青の払込取扱票をご利用ください。

記

加入者名：総合人間学会（ソウゴウニンゲンガクカイ）

口座記号番号：00180-2-579072

ATMの操作、振込用紙など、手続きの詳細は、窓口となる郵便局のスタッフにお尋ねください。

会費納入の段、よろしくお願ひします。

II. 理事会・運営委員会報告

2022年度 第2回 運営委員会 (理事参加含む)

日時 2023年10月14日(土) 13時15分～17時00分

開催方式: オンライン (Zoom)

出席 17名 (役員表順・敬称略)

古沢広祐 黒須三恵 河上睦子 長谷場健 太田 明 河野貴美子 木村武史 佐貫 浩
鈴木伸国 中村 俊 本多俊貴 松崎良美 蔭木達也 片山善博 久保田貢 熊坂元大
楊 逸帆

陪席 高橋 知花(幹事)

※冒頭、本年8月30日に逝去された三浦光永顧問に黙とうが捧げられた。

報告事項

1. 事務局

- ・ 前回理事会後の入退会が報告された。入会1名、退会3名。
- ・ 新幹事の就任が報告された。井上浩朗 (会費、会計管理。主として近藤協力理事から引継ぎ。ただし現金管理は事務局次長に遺留)、高橋知花 (会員システム管理、メーリングリスト/さくらインターネット管理。主として蔭木理事から引継ぎ。ただしHP業務は蔭木理事に遺留。)、江頭早紀 (選挙、大会準備、事務補助。ただし今年度末まで)。協力理事は少なくとも今期中は引継ぎ、サポートとして留まっていた。

2. 各種委員会

1) 学会運営・会則等検討委員会 (黒須委員長)

- ・ 以下の状況の報告、計画の説明があった。理事任期変更については意見聴取を、また活動内容の定期的な委員会への報告を求める意見があった。

1. 委員会構成

委員: 古沢会長、鈴木事務局長、助言者: 長谷場副会長 鬼頭理事

2. 会則改正の検討

- * 現状との齟齬や文言の不統一の条項、役員改選に関する箇所等を検討する。
役員任期 (現行会則2年を3年などへ)、役員数 (現行会則35名程度の見直し)
- * 改正案を提示して議論を開始する。
- * 来年6月総会に改正すべき項目など提示し意見を求める。

3. 役員選挙制度の検討に向けてのたたき台の作成

- * 役員数の検討など (選挙選出・理事会推薦選出。ジェンダーバランス、分野、年齢の割り当て)、投票記名数、選挙管理委員会、開票等の検討

2) 編集委員会 (佐貫委員長)

- ・ 以下の報告があった。また、宮森理事が副編集長に加わり、副編集長は河野理事とともに二人の体制。研究ノート、大会報告、自著紹介(書評)等の扱いは編集委員会内で検討を継続する。

(1) オンラインジャーナル 18 号への投稿エントリー数の報告

1) 投稿論文 8 点

2) 研究ノート 2 点

- ・ エントリー締め切りを当初 8 月 16 日としていたが、エントリー数が少なかったこと等により、編集委員会の審議を経て 8 月 31 日まで延長した。その結果、かなりの追加エントリーを得ることができた(倍加)。なお投稿論文・研究ノートの提出締め切りは 10 月 16 日となっていた。
- ・ 第 2 回編集委員会は、中心議題が投稿論文/研究ノートの「審査」となるのが通例だが、今回は投稿論文の提出の締め切りが 10 月 16 日となったため、編集委員会を運営委員会にあわせて 14 日に開催できず、第 2 回運営委員会の時点では投稿論文についての投稿結果を把握できていない。

(2) 今年度の投稿論文・研究ノートの「投稿規定および執筆要領」の改訂(学会 HP に掲載、参照)

- ・ 主な改訂点は以下の通りとなる。

1) J ステージ登録対応のための情報を記入。

2) 今までの「投稿規定および執筆要領」には、投稿論文・研究ノート以外のものについても書かれていたが、「投稿論文・研究ノート」に関する「投稿規定および執筆要領」に限定した。

(3) オンラインジャーナルの「編集規定」作成

- ・ 上述の事情から、(2) の「投稿規定および執筆要領」とは別に、編集委員会でオンラインジャーナルの「編集規定」を定め、報告や「書籍紹介」等についての方針を決めておく必要が議論された。今までは、投稿論文・研究ノート以外のものについては毎号編集委員会で決めてきたので、特に「編集規定」は存在しなかった。「編集規定」が必要かどうかも含め、一度、理事会で検討してもらったこととなった。

(4) 今年度編集、2024 年 5 月発行のオンラインジャーナル第 18 号の編集に関して

1) 「報告」について、各委員会などから掲載の要望があれば、編集委員会へ申し出ていただく。12 月末を期限とするが、可能であれば早期の連絡が望ましい(なお原稿の締め切りは 2 月中旬を想定しているが、正確な期日は後日発表する)。

2) 「書籍紹介」については、例年通り、会員から対象となる書籍を提案していただき、編集委員会で調整して決定する。

3) 出版企画委員会(中村委員長)

- ・ 以下の報告があった。

(1) 冊子体 18 号のタイトル、執筆者

- ・ 締め切りを来年 1 月末として執筆依頼が終了した。原稿拝受後、編集作業に入り、5 月末出版を目指す。

タイトル:『近代的「知」のあり方を問い直す

——授けられる「科学」/「学習」時代に、「学び」はどう対峙する?』(仮題)

はじめに

松崎良美(東洋大学 社会学部社会学科 助教)

1. 近代知を unlearn する

野家啓一(東北大学名誉教授)

2. 妊娠・出産・子育てをめぐる「知」のあり方を考える

—どこで、誰から、どのように学ぶのか—

松本亜紀((一社)倫理研究所/歴史学・民俗学)

3. 「アイヌ文化学習」をめぐる民族教育の可能性

—自文化への「学び」はいかにつくられたのか—

岡健吾(北翔大学 教育文化学部)

4. Learner Directed 教育と当事者研究

—知は誰(ため)のものか—

朝倉景樹(東京シユール理事、TDU・雫穿大学代表)

5. コメンテーターとしてのまとめ (仮題)

楊 逸帆 (アドラー・楊)

(2) 冊子体そのもののあり方について

- ・ 出版企画委員会を拡大した場で検討をすすめたい。より「読まれ、面白い雑誌」にしてゆく工夫を具体化するために、7月23日の運営委員会で以下の方々に検討に加わっていただくことを依頼した(上柿崇英、蔭木達也、楊 逸帆(以上、敬称略)さらに自他薦あればお願いしたい)。

4) 研究談話委員会 (木村委員長)

- ・ 以下の活動が報告された。

第1回 7月23日(日) 大上 泰弘氏(帝人株式会社、博士(東京工業大学))

タイトル:「クスリはどうやって生み出されているのか?」

第2回 10月1日(日) 倉本 宣氏(明治大学農学部教授)

タイトル:「市民参画型の里山管理における目標とする自然についての合意形成」

5) KW 集刊行委員会 (長谷場委員長)

- ・ 第1次グループのKWが仕上がりつつあること、河上委員の委員辞退、若手委員の補充予定が報告された。

6) 広報委員会 (太田委員長)

- ・ HPの様式変更について説明があった。

7) 若手委員会 (本多委員長)

- ・ 以下の活動報告および計画の説明があった。

(1) 2023年度「若手委員会」の活動

- ・ 5月発行『オンラインジャーナル総合人間学』に、菅原・木野村の論文が掲載された。
- ・ 1~6月にかけて若手ワークショップの準備会を開催。
- ・ 6月の本学会大会において、若手ワークショップ『持続可能性を問い直す』を実施。(報告者: 井上浩朗、横山智樹、高橋知花 司会: 本多)

(2) 今年度の予定

- ・ 10月24日: 論文執筆に向けた検討会(井上、横山、高橋)
- ・ 12月末日: 『持続可能性を問い直す』各論文の提出
- ・ 1月: 論文完成に向けた相談・検討会
- ・ 2月: 編集委員会への提出

(3) 来年度の予定

- ・ 引き続き、若手ワークショップの実施と『オンラインジャーナル』執筆
- ・ 12月中旬に次回「若手ワークショップ」の準備会(1回目)。
 - ・ 次年度の若手ワークショップについては、非会員の荻翔一(学振PD)に意欲を示していただいております、「宗教」(特に新宗教)あるいは「宗教とケア」をテーマの候補として考えている。
 - ・ 荻氏以外のメンバーを2名(非会員)ほど想定しており、これから調整する。

(4) 今後の課題

- ・ 組織体制を変えていく必要がある。前回の運営委員会で指摘があったが、委員を増やす必要がある(案: 委員長1名、副委員長2名、委員数名)
- ・ 研究談話会などとの連携といった、委員会の内容拡充の検討
- ・ 若手のネットワーク構築。若手ワークショップへの提案、あるいはメンバー募集を呼びかける組織化が必要

審議・協議事項など

3. 特別企画について

- ・古沢会長から「故名誉会長関連の特集企画」（小林直樹氏、小原秀雄氏）の提案があった。それに対し出版に関わるのであれば、編集責任体制をつくる必要があるとの意見があった。
- ・古沢会長から、鬼頭理事により研究談話委員会に提案された企画の説明があり、検討されたのち、会長が調整することとなった。

4. 次期大会の企画案と準備について

- ・古沢会長から大会企画についてのアンケートに寄せられた意見の説明があり、次年度大会テーマについて検討された。蔭木理事から「ケア」というテーマが提案され、委員会外で検討することとなった（古沢、蔭木、片山理事）。
- ・事務局から大会実務につき、2024年度大会の当日の運営開催（旧来の開催校責任）については、事務局は直接の開催の責を負えないものと見込まれるため、開催責任者または開催実行委員会を事務局と区別して設置することをお願いする（原稿集め、大会プログラムの作成・発送など、もともと事務局が持っていた部分は、引き続き対応可能）。

5. 第10期への役員改選の準備について

- ・事務局から役員改選手続きについて以下の提案があり、了承された。
 - ・年内に現理事に再任の可否を確認し、会員に自薦他薦を呼びかける（会員名一覧の配布を含む）。
 - ・2月理事会で自他推薦の集約・意見交換（推薦理事候補）を行う。
 - ・その後の調整を経て4月理事会で最終案を出す。
 - ・5月総会で承認・交代
- ※ 第9期理事会は2024年度総会で満期となる。

Ⅲ. 事務局からのお知らせ

- 1) Newsletter のメール配信について： Newsletter は、41号から郵送事務と経費削減のために、電子メール登録のある会員の皆さまには、電子メールによる配信をさせていただくこととなりました。Newsletter の発行にあわせて、学会ホームページ（HP）に、Newsletter が配信された旨告知し、会員の皆さまに電子メールでの着信をご確認いただくことといたしました。お使いのメールによって、迷惑メール等へ振り分けされるケースがありますので、見落としされませんようご注意ください。学会からのメール配信で不着信につきましては、学会事務局までご一報ください。
- 2) 会費納入状況などの確認は、学会のHPの「会員限定」のところにある、「会員用マイページ」へのアクセスで、各個人限定の閲覧にてご確認ください。会員限定のマイページにアクセスする際は、年誌とともにお送りしている請求書に記載されているIDとパスワードをご利用ください。基本的に事務局にて慎重に管理していますので、メールアドレスや連絡先の変更などは、事務局にご一報ください。
- 3) 会員の皆さまへの会費納入の案内は、書籍版・機関誌の発送時にて、「宛名ラベル」での会費告知と振替用紙の同封の送付の際にて、行わせて頂くこととなりました。ご理解、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。
- 4) 学会誌・書籍（普及ブックレット）版のご活用について、学会活動の貴重な成果が掲載されておりますので、ゼミ演習等でのテキスト利用など、ぜひご活用と、ご協力頂きますようお願い申し上げます。
- 5) 年度内の今後の運営委員会・理事会の日程（現時点での予定）は以下の通りです。

- 第4回 2024年2月10日(土) 13:15~15:45 理事会・運営委員会
 第5回 2024年4月27日(土) 13:15~15:45 運営委員会(理事参加歓迎)
 第6回 2024年5月25日 理事会・運営委員会

2020年度からオンライン会議による開催を踏まえて、従来の運営委員会を理事の自由参加として運営委員会・理事会として行ってきました(2021・21年度)。2023年度も基本的には同様なのですが、会議名を明示しました。運営委員会(理事の参加歓迎)ということで、会議開催は理事メール宛として理事の積極的参加を期待してご案内いたします。

学会誌販売のご案内

総合人間学会誌『総合人間学』の以下ラインナップを、学会の在庫分にかぎり

1冊 **特価1000円**(送料別)にて販売いたします!

購入ご希望の方は、注文冊数、送付先を学会事務局までメールまたはfaxにてお送りください。

- 第13号 『科学技術時代に総合知を考える——文系学問不要論に抗して』
 第12号 『〈農〉の総合人間学』
 第11号 『人間にとって学び・教育とは何か——未曾有の教育危機に直面して』
 第10号 『コミュニティと共生——もうひとつのグローバル化を拓く』
 第9号 『〈居場所〉の喪失、これからの〈居場所〉——成長・競争社会とその先へ』
 第8号 『人間関係の新しい紡ぎ方——3・11を受け止めて』
 第7号 『3・11を総合人間学から考える』

【本件連絡先：学会事務局】

・Eメールアドレス contact@synthetic-anthropology.org

(事務連絡)

<< 学会費の納入お願い >>

*総合人間学会・年会費、昨年度(2022年度)の振り込みがまだの方は、今年度と合わせてお振り込み下さい。学会誌(書籍版)送付時に振り込み用紙を同封、見当たらない方は郵便局の振込用紙にてお願いします。

(過去年度未納・滞納の会員の方は、早急にご対応のほど宜しくお願い申し上げます)

●会計年度としては、4月からは2023年度となりますので、2023年度の学会費につきまして、早めの納入をお願いいたします。6月研究大会前に、学会誌『総合人間学17』の刊行・送付をしていますので、同封の振込用紙をご利用ください。

学会費：一般：7,000円・減額：4,000円(減額は申請者のみ：学生や非常勤職などへの配慮)

・加入者名：総合人間学会 口座記号番号：00180-2-579072

①郵便局そなえつけの振替用紙、②ATM送金、③電子振込み、に対応しています。

◆ひろく学会員の門戸を開いておりますので、ご関心の方々にぜひ入会をお勧めください。

学会HP(入会案内)参照：http://synthetic-anthropology.org/?page_id=57